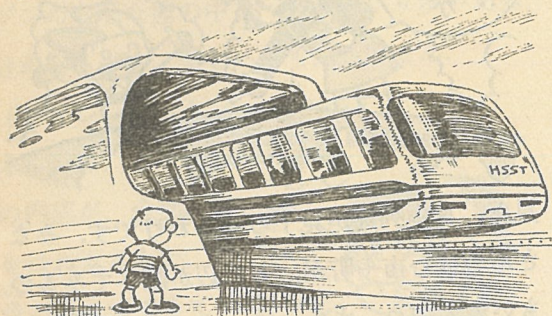


# 会場内には変わり型の足がある

## ゆめの超特急 HSST

各種の乗りものに興味を持っている人にも今回の科学万博は、楽しい場所になるでしょう。未来の乗りものを想像させてくれる展示



物がたくさんあるからです。

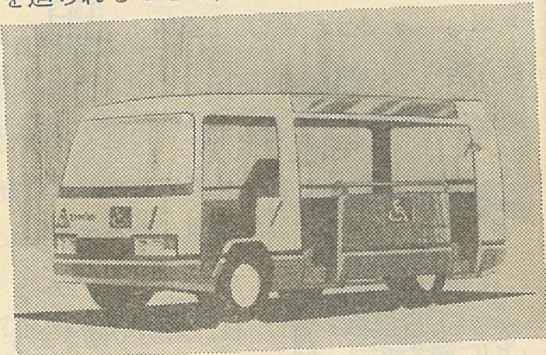
実用化されれば、時速300kmになるというまったく新しい乗りもの——磁気で車体を浮かせて走る、HSSTなどの実物に、お目にかかれるのが、今回の科学万博です。

## ハムレットじゃないが...

問題は、科学万博会場の足として用意されている各種の乗りものに、どれくらい乗車でき、実体験できるかですが、時間によろがない時、どれに乗るかは、頭の痛い問題になるでしょう。有名なハムレット王子のせりふ



ではありませんが、『どれに乗るか、どれに乗らないか、それが問題だ』といった、決断を迫られることは、まず、確実でしょう。

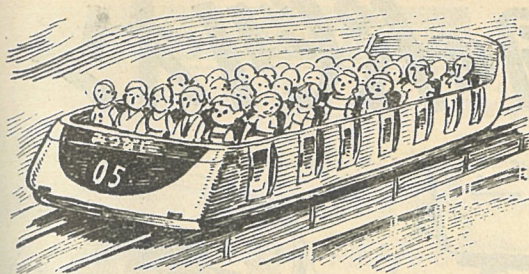
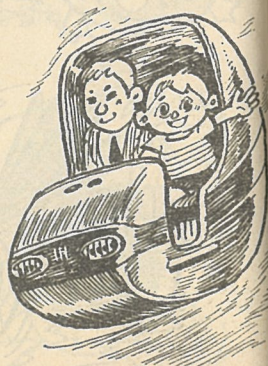


会場には、HSSTの他に、モノレール形式の《ビスタライナー》、ゴンドラリフトを使った《スカイライド》、それに《ポレポレバス》などが、会場の足として存在します。

## パビリオンの中にも...

乗りものがあるのは、屋外だけにかぎりません。先に、映像のところでも触れたようにトコロテン方式をとっているパビリオンでは場内の移動に、乗りものを使っています。

たとえば、電力館の、探査艇に似せた、三人乗りの《エレクトロ・ガリバー号》などもそのひとつ。この乗りもののデザインは、全国の高校生以下の子供から募集され、福井県の小学生の案を採用し、まんが家の手塚治虫さんが手を加えて、生まれました。多分、皆さんが興味を持つ乗りものひとつでしょう。



このような乗りものは、三井館・三菱未来館にもあります。

三井館の《ライド》は、21人乗りの5台連結で動きます。

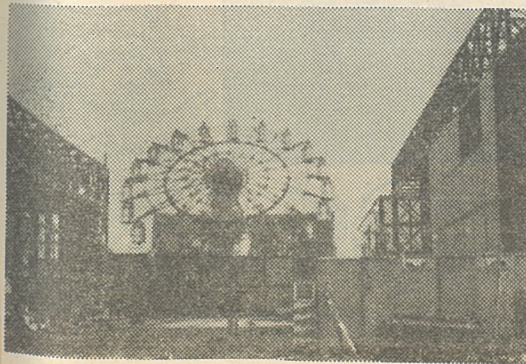


一方、三菱未来館の《みつびし21》は50人乗り。コンピューターやセンサーで運行が調節され、未来型の乗りものありかたを示す、ひとつの展示物にも、なっています。

## パビリオンの外にも...

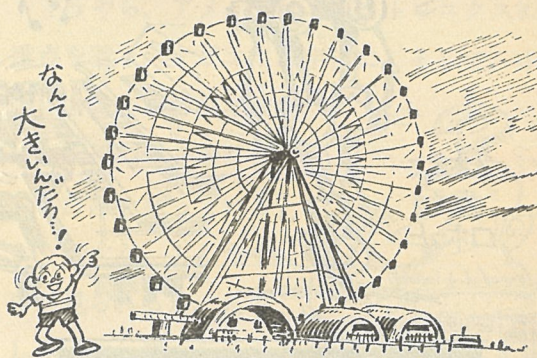
くるま館の《スペースライダー》は4人乗りで、96台用意され、これは、屋外から屋内へ、観客を運びます。

また、KDDテレコムランドのばあいは、屋外に、通信衛星に似せた、6人乗り《テレコムカプセル》20台があります。



## これも乗りものだよ...

いちばんの変り種の乗りものは、テクノコスモスの大観覧車。8人乗りのゴンドラが、なんと、48台ぶらさがっています。15分で一周しますが、観覧車としては、世界一の



大きさです。このゴンドラの中で、記念メダル込みの800円を支払って、宇宙食!?を食べてもらおうというのが狙い。

民間パビリオンの中で、会場全体を見渡せる、最高の眺めを持つのは、ここです。

## ついているか、ついてないか...

問題は、科学万博の運営をしている事務局が考えているように、最高、一日10万の入場者があつた時、これらの乗りもののいくつに乗れるか——でしょう。

どうしても乗りたいものがあつたら、開場と同時に、『それ、行け』と目的の場所にかけてける——それよりなさそうです。

